

魅力ある大学づくりに 学生諸君の参加を

滋賀大学長 成瀬 龍夫



滋賀大学は教育学部と経済学部の二学部で構成されています。国立大学の中で規模は大きいといえませんが、教育学部は滋賀県師範学校以来130年の歴史をもち、多数の学校教員を養成して県内外に送り出してきました。経済学部は彦根高等商業学校以来84年の歴史を有し、明治のはじめに福沢諭吉が提唱した「士魂商才」を教育理念に掲げ、戦前戦後を通じてすぐれた企業家を世に送り出しています。

滋賀大学は、EducationとEconomyのいわゆるEE大学ですが、もう一つのEすなわちEnvironmentが特徴として挙げられます。琵琶湖を抱える滋賀の地に立地する本学は、湖沼環境問題の研究教育に早くから取り組んで多くの実績をあげています。

数多くの先人、先輩たちの努力と活躍のおかげで、本学は今日においても高い社会的評価を得ており、卒業生の就職は良好です。学生諸君は、こうした本学の歴史と伝統に誇りを持って勉学に励んでいただきたいと思います。

滋賀大学は、いま新たな条件の下で大学づくりに取り組んでいます。国立大学は平成16年4月から法人化され、大学運営の自由度が大幅に拡大される一方自己責任は大変重くなりました。国立大学法人は6年間の中期目標と中期計画を策定し、国の承認を受けると運営費交付金が交付され、その金額は今後の中期目標・計画の達成状況の如何によって変動するという仕組みになっています。

本学が策定した第1期の中期目標は、①全学的な教育研究の柱を環境問題におく、②学部では教育学部は「ティーチャーズ・センター」構想の推進、経済学部はリスクの教育研究に力を入れる、③東アジアの大学と環境・リスクをテーマに交流をはかる、という三本柱を掲げています。両学部がそれぞれ社会的使命である教育人と経済人の人材養成に取り組むことはいまでもありませんが、大学全体としては環境問題の教育研究に力を入れています。また、経済学部が平成15年度から大学院博士後期課程「経済経営リスク専攻」を設置し、学部付属のリスク研究センターを発足させたことから、リスクに関する教育研究を全学的課題として位置づけています。

本学では、年度始めに学長が大学の重点課題と方針を示すことになっていますが、平成17年度は、次のような課題をあげています。①本学の募集力アップと学生支援の充実、②教職員・学生における大学アイデンティティの確立、③中期計画の推進、④環境総合研究センター等、環境教育研究体制の拡充、⑤国際センターの設置と国際交流事業の新たな展開、⑥外部教育研究資金の獲得、⑦地域・産学公・大学間の連携事業の展開、⑧財政構造の見直しと予算管理の改善、⑨トップマネジメント体制の改善、⑩教職員の意識改革と評価制度の導入。

大学づくりは、教職員の努力だけでなく、学生諸君の役割が不可欠です。教員には教育研究、事務職員には経営管理というそれぞれの仕事がありますが、教職員は決して大学の主人公ではありません。学生諸君こそ大学の主人公です。平成18年度は、キャンパスライフをもっと快適にし皆さんの勉学の満足度を高めることを重点の一つにしたいと考えていますが、そのために、皆さんに大学づくりに参加・参画してもらう機会を増やしたいと思っています。